石見銀山国際音楽アカデミーの講師たちによる特別コンサート

# パリの響きを日本に！

島　根
松　江　公　演

2019年5月18日(土)
19:00開演
松江市総合文化センター プラバホール

石見銀山
国際音楽
アカデミー
IWAMI GINZAN
Interantional
Music Academy
島根県大田市大森町

http://iwamiginzan-ima.com


## 八雲立つ日本・出雲から陽が昇る

### 水と火と健康寿命の聖地　聖火リレー・世界の水の偉人灯籠

4月29日(月)、意宇川(松江市八雲町日吉)の人気恒例行事になっています「八雲ゆう游こいのぼり」にあわせ、6月8日に行われる嫁ヶ島万灯会・ホーランエンヤ・パリの響きを日本に！コンサートの成功と世界の平和の祭典オリンピックの盛会を祈願して、火の発祥の神社として「日本火出初之社」とも呼ばれる熊野大社鑽火殿の聖火をいただき聖火リレーを開催いたしました。
夕方には、全国の古くからの水の偉人名を記載した灯籠に火をともし、感謝の誠を捧げました。

空間価値を創造　節電・省エネ・衛生管理に
happy gate monban 門番
特許出願中
東京築地・豊洲新市場
大量採用

1980年発売以来
175,000台達成
2019年5月現在

民民公連携で地方創生を推進、広域クロスオーバー管理で新産業創出
クラウドの先駆け 総合水管理システム
やくも水神 yakumo Suishin
2000年発売以来
470自治体
12,000施設突破
2019年5月現在
遠隔地から設定変更や機器を操作

小松電機産業株式会社
https://www.komatsuelec.co.jp/
人間自然科学研究所
https://www.hns.gr.jp/
TEL 050-3161-2490
東京・大阪・仙台・松江・ソウル・バンコク

## PROGRAMME

ドビッシー
### シランクス
Claude Debussy
Syrinx

メノッティ
### ヴァイオリン、クラリネットとピアノのための三重奏曲
Gian Carlo Menotti
Trio for Violin, Clarinet and Piano

ルイーズ・ファランク
### 三重奏曲 ホ短調 op.45
Louise Farrenc
Trio in E Minor op.45

. . . . . .

ブラームス
### クラリネット・ソナタ 第2番 変ホ長調 op.120-2
Johannes Brahms
Clarinet Sonata in E-Flat Major op.120, No.2

ラフマニノフ
### 悲しみの三重奏曲 第1番 ト短調
Sergei Rachmaninov
Trio Élégiaque

---

主　催
石見銀山国際音楽アカデミー実行委員会

共　催
NPO法人松江音楽協会

助　成
特定非営利活動法人イエロー・エンジェル

協　賛
中村ブレイス株式会社　株式会社 ビュッフェ・クランポン・ジャパン　フィンダ・ピッコロ

後　援
島根県　島根県教育委員会　松江市　松江市教育委員会　大田市　大田市教育委員会　島根県日仏友好協会
一般社団法人日本フルート協会　一般社団法人日本クラリネット協会　日本ホルン協会　島根県吹奏楽連盟
朝日新聞松江総局　エフエムいずも　エフエム山陰　ぎんざんテレビ　山陰中央新報社
TSK山陰中央テレビ　島根日日新聞社　毎日新聞松江支局　読売新聞松江支局
（媒体はあいうえお順記載）

特別推薦
小松電機産業株式会社・人間自然科学研究所

## PROFIL

**トーマ・プレヴォ**　Thomas Prévost, Flute　　石見銀山国際音楽アカデミーファウンダー
フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団首席フルート奏者／パリエコールノルマル音楽院教授

10歳から17歳までジュネーブ音楽院で学ぶ。アンドレ・ペパン（スイス・ロマンド首席奏者）に師事。ジュネーブ音楽院からPrix de virtuosité を授与される。17歳でパリ国立高等音楽院入学、フルート科教授のJ=P.ランパルとA.マリオンに、室内楽をC.ラルデに師事。パリ音楽院時代にバーンスタインやベームなどの指揮で演奏。P.ブーレーズが結成したアンサンブル・アンテルコンタンポランの首席フルート奏者にマリオンと共に在学中に招請されるが、直後にフランス国立放送フィルから首席奏者の指名を受け放送フィルに入団。ソリストとして、フランス国立フィル、モンテカルロ、モントルー他数々のオーケストラと共演。P.シュライアー、L.ラスキン、E.・アックス・ヨーヨー・マ、P.フランク等の世界的音楽家たちとの共演でも活躍、ヨーロッパ、北米、アジア各国から招かれている。世界最高のアーティストの一人として、その素晴らしい人格で多くの尊敬を集めており、後進の指導や芸術文化の活性化のための活動に力を注いでいる。2017年第10回石見銀山文化賞受賞。

**パトリック・メッシーナ**　Patrick Messina, Clarinet
フランス国立管弦楽団 首席クラリネット奏者／ロンドン王立音楽院 客員教授／パリエコールノルマル音楽院 教授

南仏ニース生まれ。父の手ほどきでクラリネットを始め、ニース音楽学校入学。その後パリ国立高等音楽院に入学、G.ドプリュス、M.アリニヨンに師事、18歳でクラリネット科と室内楽科を首席で卒業。その間にビュッフェ・クランポン国際コンクールに史上最年少（14歳）で第１位受賞。1992年ユーディ・メニューイン財団賞受賞、'94年に渡米しクリーヴランド音楽院でF.コーエンに師事。'96年カーネギーホール内ヴェイル・リサイタルホールでニューヨークデビュー。メトロポリタン歌劇場管弦楽団に入団しレヴァイン、ゲルギエフ、スラトキンらの指揮で演奏。'03年にマズアの招きでフランス国立管の首席奏者に就任。コンセルトヘボウ管、シカゴ響他世界各地の主要オーケストラや多くの著名指揮者と、室内楽でもグルベローヴァ、ルイサダやベルリン・フィルメンバーたちと共演。'12年ムーティ指揮フランス国立管とのモーツァルトのクラリネット協奏曲のCDで絶賛を浴びた。日本では'17年より石見銀山国際音楽アカデミーのクラリネットクラスの講師を務めている。

**破魔 澄子**　Sumiko Hama-Prévost, Violin　　石見銀山国際音楽アカデミー音楽監督／実行委員会代表
フランス国立管弦楽団 元第1ヴァイオリン奏者

５歳からヴァイオリンをはじめる。桐朋学園高校音楽科を卒業後、米国ミネソタ大学にてノーマン・キャロル氏（後にフィラデルフィア交響楽団コンサートマスターに就任）に師事。翌年ジュリアード音楽院から全額給費を受け入学、ジョセフ・フックスに師事。室内楽をアーサー・バルサム、リリアン・フックス等に学ぶ。JDロックフェラー財団奨学金も授与される。卒業後フランスに渡り、ジョセフ・カルベに師事。1976年、フランス国立管弦楽団に初の外国人として入団し、以来40年間在籍、数多くの著名な指揮者やソリストたちと共演を重ねる。パリ日本文化会館こけら落とし公演では安永徹、深井博文、店村眞積、堤剛、嶺田健との六重奏が話題となった。オーケストラでの活動の他、スウェーデン、ポーランド、北米、台湾、日本などにリサイタルや室内楽で招かれている。2008年島根県大田市大森町に居を構え、現在はパリと日本を拠点に活躍している。2017年第10回石見銀山文化賞受賞。

©鍋島徳恭

**堤 剛**　Tsuyoshi Tsutsumi, Cello　※特別ゲスト

名実ともに日本を代表するチェリスト。桐朋学園子供のための音楽教室、桐朋学園高校音楽科を通じ齋藤秀雄に師事。1961年アメリカ・インディアナ大学に留学、ヤーノシュ・シュタルケルに師事。63年ミュンヘン国際コンクール第2位、カザルス国際コンクール第1位。これまでに、日本芸術院賞（1992年）、ウジェーヌ・イザイ・メダル（1973年）、芸術祭放送大賞（1974年）、中島健蔵音楽賞（1998年）、毎日音楽賞（2017年）等多数受賞。2009年秋には紫綬褒章を受章。2013年、文化功労者に選出。インディアナ大学教授（1988～2006年）、桐朋学園大学学長（2004～2013年）を歴任。現在、サントリーホール館長、桐朋学園大学特命教授、韓国国立芸術大学客員教授。日本藝術院会員。

**ミロスラフ・セケラ**　Miroslav Sekera, Piano
プラハの春音楽祭公式ピアニスト／プラハ芸術大学専任

幼少よりヴァイオリンとピアノを同時に学ぶ。多くのジュニアコンクールで数々の賞を受賞。その存在が映画の巨匠ミロシュ・フォアマンの目にとまり、アカデミー賞受賞映画「アマデウス」に、ピアノとヴァイオリンの両方を演奏する天才少年モーツァルト役に抜擢される異色の経歴を持つ。プラハ音楽院でピアノ専攻を決心。プラハ芸術大学を首席で卒業。マリアーンスケー・ラーズニェ国際ショパンピアノコンクール、プラハ芸大コンクールで第1位、アディリア・アリエヴァ国際ピアノコンクール第2位、ブラームス国際コンクール第1位。ウィーン・コンツェルトハウス、楽友協会ホール、ケネディセンターなど世界中で演奏。歌手D.ペツコヴァーやホルンのパボラークなど世界的音楽家たちと共演を重ねている。2016年と'18年にドヴォルザークホールでのルドルフ・フィルクスニーピアノ音楽祭に出演し大成功を収める。'17年ニューヨーク音楽協会よりSalon de Virtuosi賞受賞。'17年より石見銀山国際音楽アカデミーのピアノクラスおよび室内楽クラスの講師を務めるほか、各地での演奏で高い評価を得ている。

# ごあいさつ

本日は、ご多忙のなか、ご来場いただき誠にありがとうございます。

縁あってこの地での音楽文化の活性化に携わってまいりましたが、本格的な事業に取り組みはじめてから、お陰様で５周年を迎えることができました。本日の公演も、私どもの活動をより多くの皆様に幅広く知っていただきたいという思いで、ＮＰＯ松江市音楽協会との共催により実現いたしました。

これまでご支援やご協力を賜りました皆様、本公演の開催にご尽力いただいた皆様、そして本日ご来場くださいました皆様に、この場を借りて心より感謝と御礼を申し上げます。

今回は、小松電機産業株式会社・人間自然科学研究所様にも特別推薦いただくことができました。「太陽の国 水の都 緑の街」という楽曲をテーマに掲げられており、音楽ジャンルは違いますが、その思いは共通する部分も多く感じております。いずれこういった曲も取り上げたコラボレーション企画にもつなげていきたいと思います。

これからも、島根県そして日本の音楽文化の発展のために、微力ながら取り組みを継続してまいる所存です。引き続き、ご指導やご支援、今後の事業へのご来場を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。それでは、どうぞごゆっくりお楽しみください。

2019 年 5 月 18 日

破魔 澄子
石見銀山国際音楽アカデミー実行委員会代表
石見銀山国際音楽アカデミー音楽監督

# プログラムノート

## ドビッシー：シランクス（フルートソロ）
Claude Debussy : Syrinx

フランス人作曲家クロード・ドビュッシー（1862.8.22 ～ 1918.3.25）が、1913 年に「無伴奏フルートのためのシランクス（パンの笛）」という曲名で作曲したフルートソロ作品です。ドビュッシーは、19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて最も影響力のあったフランスを代表する作曲家。伝統的な型式にとどまらない独自の作風で知られ、管弦楽曲「牧神の午後への前奏曲」、交響詩「海」、オペラ「ペレアスとメリザンド」のほか器楽曲、室内楽曲、歌曲、バレエ曲などを幅広く手掛け、数多くの名曲をのこしました。

この曲はもともと、ガブリエル・ムーレの詩劇「プシシェ」の舞台上演の際に、劇中で牧神パンが死を迎える前に音楽を奏でるシーンで、舞台袖で演奏される付随音楽として書かれた曲だったそうです。シランクスとは、ギリシャ神話の牧神パンの話のなかに登場する美しい精霊の名前です。パンに川岸まで追い詰められたシランクスは川の妖精の助けで葦の茂み身を潜めました。追いかけて来たパンはシランクスを一気に捕まえかかりましたが、抱きかかえたのは葦ばかりでした。パンはそれらの葦を切りそろえて葦笛パンフルートをつくり、美しい音色のするその笛をシランクスと名付けました。この神話からの連想によってこの曲がシランクスと名付けられました。

フルートの音色が徹底して追究され、新しい音色や調性への斬新な取り組みがなされた独創性の高い曲で、現在ではフルート奏者のバイブル的な定番曲になっています。フランスの名フルート奏者ルイ・フルーリー（1878 ～ 1926）に献呈されました。

## メノッティ：ヴァイオリン、クラリネットとピアノのための三重奏曲
Gian Carlo Menotti : Trio for Violin, Clarinet and Piano

ジャン・カルロ・メノッティ（1911.7.7 ～ 2007.2.1）はイタリア出身のアメリカのオペラ作曲家・台本作家。1923 から 27 年までミラノ音楽院で学び、大指揮者トスカニーニの奨めで 1928 年に渡米。1928 年から 33 年までカーティス音楽院でロザリオ・スカレロに作曲を師事し、卒業後も同音楽院で 1933 年から 55 年まで教鞭をとりました。同世代の同校出身者には、レナード・バーンスタイン、ルーカス・フォス、ニーノ・ロータ、サミュエル・バーバーなど錚々たる巨匠たちが名を連ねています。デビュー作「アメリア舞踏会へ行く」でメトロポリタンオペラで成功、以後オペラ作曲家として活躍しました。「霊媒」はブロードウェイで連続上演 211 回に及ぶヒット作品となり、1950 年発表のオペラ「領事」もニューヨークで 9 ヶ月連続上演、15 ヶ国語に翻訳されるヒットとなり、世界的な名声を得ました。現代的な素材を扱ったことが特徴的な「電話」は日本でも頻繁に取り上げられています。代表作「アマールと夜の訪問者」はクリスマス時期の定番オペラとして有名です。

1958 年にイタリアにスポレート音楽祭を創設、1977 年にはアメリカでもスポレート音楽祭も併設。1993 年からはローマ歌劇場の支配人を務めました。

メノッティが活躍したのはオペラや舞台作品の分野が中心でしたが、バレエ音楽、合唱曲、器楽曲、交響曲なども幅広く手掛け、さらにポピュラー音楽にまでも影響を及ぼしています。このヴァイオリン、クラリネットとピアノのための三重奏曲はメノッティが作曲した数少ない室内楽曲です。今回は貴重な機会になるでしょう。
Ⅰ. カプリッチョ（Capriccio）　Ⅱ. ロマンツァ（Romanza）　Ⅲ. アンヴォア（Envoi）

## ルイーズ・ファランク：三重奏曲 ホ短調 op.45
Louise Farrenc : Trio in E Minor, op. 45

ルイーズ・ファランク（1804.3.31 ～ 1875.9.15）は、19 世紀フランスに活躍した女性作曲家です。同世代にメンデルスゾーンやシューマン、ショパン、リストといった大作曲家たちが活躍する中、古楽や古典への造詣に深かったファランクは、ロマン派が発展していく背景に独自の作曲様式を見出しました。交響曲や序曲などの管弦楽、変奏曲、エチュード、ピアノ曲など、古典的構成にロマン派の情感をバランスよく配したスタイルで存在感を示していきました。

ピアニストとしても名声を博したファランクは、1842 年、それまで男性のみの職であったパリ音楽院のピアノ科教授に就任、当時まだ低かった女性の教授としての地位を男性同様のレベルに引き上げ、30 年間にわたりパリ音楽院ピアノ科正教授を務めるなど、ピアニスト、作曲家、教育家、音楽学者として活躍しました。フランス学士院より管弦楽曲に対して授与されるシャルティエ賞を 1861 年と 1869 年の二度にわたって受賞しています。

ファランクの作品は長年にわたり出版されることもなく忘れ去られかけていましたが、ドイツ研究振興会により 1995 年に楽譜の復刻版が出版されて以降、改めてその音楽的価値が認められ演奏される機会も増えています。本日演奏するフルート、チェロ、ピアノによる三重奏曲は、作曲当時から傑作として評価の高い作品です。力強い前奏で始まり、フルートとチェロによる愛らしい主題と躍動感に溢れたピアノによって展開する第 1 楽章、ワルツ風の優美なメロディーと様々な転調が印象的な第 2 楽章、トリオによる牧歌的な旋律が奏でられる第 3 楽章、そして第 4 楽章は軽快に躍動しつつ主題が転調を重ねて色彩的な変化を遂げながら情熱的なフィナーレを迎えます。
Ⅰ. アレグロ・デチーゾ（Allegro deciso）　Ⅱ. アンダンテ（Andante）　Ⅲ.ヴィヴァーチェ（Vivace）　Ⅳ. プレスト（Presto）

## ブラームス：クラリネット・ソナタ 第 2 番 変ホ長調 op.120-2
Johannes Brahms : Clarinet Sonata in E-Flat Major op. 120, No. 2

ヨハネス・プラームス（1833.5.7 ～ 1897.4.3）は、60 歳を過ぎた 1894 年に 2 曲のクラリネット・ソナタを書き上げました。高齢となり創作意欲が衰退してきた頃に、当時ドイツで最も有名なクラリネット奏者リヒャルト・ミュールフェルトと出会い、その演奏の素晴らしさに再び創作意欲をかきたてられ、クラリネット作品（三重奏曲 op.114、五重奏曲 op.115、ソナタ op.120）を立て続けに完成させました。

この曲はブラームスが書いた最後のソナタ作品となり、1895 年 1 月 7 日にウィーンにて、ミュールフェルトのクラリネットと、ブラームス自身によるピアノ演奏で初演されました（前年 11 月に私的な演奏も行われています）。

第 1 番は情熱的、第 2 番は穏やかな曲調の対照的な 2 曲ですが、本日は第 2 番を取り上げます。晩年を迎えた寂しさ孤独感の中にも、よみがえった創作意欲への明るい陽射しが感じられるような作品です。この曲は作曲者自身によってヴィオラ用やヴァイオリン用にも編曲されており、クラリネット版とともに頻繁に取り上げられる名曲となっています。
Ⅰ. アレグロ・アマビーレ（Allegro amabile）　Ⅱ. アレグロ・アパッショナート（Allegro appassionato）
Ⅲ. アンダンテ・コン・モト（Andante con moto）

## ラフマニノフ：悲しみの三重奏曲 第 1 番 ト短調
Sergei Rachmaninov : Trio élégiaque g-moll

セルゲイ・ラフマニノフ（1873.4.1 ～ 1943.3.28）は、ロシア帝国出身の作曲家、ピアニスト、指揮者として活躍しました。少年期にチャイコフスキーにその才能を認められモスクワ音楽院で学ぶ機会を得て、1891 年に 18 歳にしてピアノ科を首席で卒業、1892 年には作曲科も首席卒業するという飛びぬけた才能の持ち主でした。

「悲しみの三重奏曲」はラフマニノフが初期に作曲したヴァイオリン、チェロ、ピアノによる三重奏曲です。モスクワ音楽院で作曲を学んでいた 1892 年、19 歳の時に作曲した第 1 番と、卒業後 1893 年に作曲した第 2 番の 2 曲があります。本日演奏する第 1 番はラフマニノフの生前には楽譜は出版されず、長らく日の目を見なかった曲でしたが彼の死後に評価が高まり、1947 年に出版されたことで演奏される機会が増えていった曲です。恩師のチャイコフスキーが盟友ニコライ・ルビンシテインの死を悼んで作曲したピアノ三重奏曲「偉大な芸術家の思い出に」の第 1 楽章を手本にしていると言われ、全体を通しての哀調を帯びた曲風と葬送行進曲による終末はまさしくチャイコフスキーの音楽を敬愛すればこそ生まれた三重奏曲と言えるでしょう。19 歳のラフマニノフが、恩師の音楽に影響を受けつつも、ラフマニノフ自身のピアノの名手としての技巧を駆使した多彩さと、哀愁に溢れた旋律には、若き日のラフマニノフの無限の音楽性と創造力と、個性確立に向かう天才が感じられます。

単一楽章による約 15 分の作品です。
レント・ルグーブレ－ピュ・ヴィヴォ－コン・アニマ－アパッショナート－テンポ・ルバート－リゾルート－テンポ・ルバート
Lento lugubre - Piu vivo - Con anima - Appassionato - Tempo rubato - Risoluto - Tempo rubato